



第3部

資料

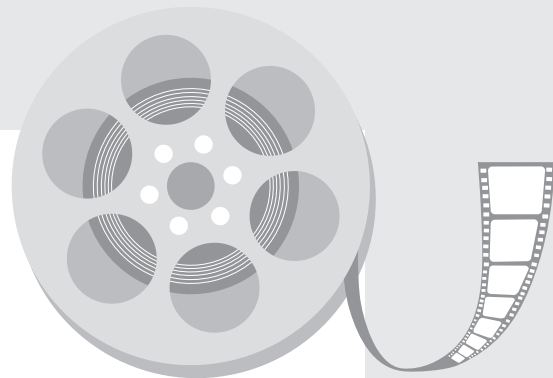
『痛ましき謎への子守歌』

作品情報

未完のフィリピン革命を問う

『痛ましき謎への子守唄』
(A Lullaby to the Sorrowful Mystery [Hele sa Hiwagang Hapis])

監督：ラヴ・ディアス
2016年／フィリピン／489分



山本 博之

ラヴ・ディアスの8時間に及ぶ長編歴史ドラマ『痛ましき謎への子守唄』は、冒頭、薄暗い部屋で書き物をしている青年の姿で始まる。この人物が何者であって何をしているのかは説明されないが、それは説明の必要がないためだ。薄暗い部屋で青年が書き物をするとなれば、処刑直前の革命家ホセ・リサルだと誰もが思うためだ(ただし、そう思わせておいて、この人物はリサルではない)。フィリピンには7,000以上の島々に数多くの言葉が存在し、今でも全国民が共通して使える共通語はないと言ってよい。それにもかかわらずフィリピンの人々の間でフィリピン人意識が強い背景の1つに、言葉や文字ではなく図像や芝居によって物語が伝えられてきたことがある。1つ1つの図像や芝居を見たとき、そこに共通の意味を見出すのがフィリピンの人々である。そのような意味を共有していない人にとって、フィリピンの舞台や映画は難しく映ることになる。

『痛ましき謎への子守唄』は、まさにそのような映画だ。観客は、8時間に及ぶ上映時間に耐えられるだけでなく、そこに描かれていることがうまく捉えられるかが問われる。史実・小説・伝承の登場人物が入り混じって登場するが、それぞれの人物についての説明は最小限で、それが誰でどのような人物なのかを観客は常識として知っていることが求められる。また、全編モノクロなので、画面が切り替わったとき、極端に言えば、映っているもののうちどれが背景でどれが人物なのかはすぐにはわからず、しばらくして影が動くところに人がいたとわかったりする。

この作品は、路線対立のためアギナルド一派に山中で粛清された革命指導者ボニファシオの妻グレゴリア(オリヤン)が山中でボニファシオを探すという史実に即した物語と、リサールの小説の登場人物であるイサガニが傷ついたシモウンを運んで叔父のいる山小屋に連れて行くという小説に即した物語の2つが、時

おり交錯しながら並行して進む。ただし、この物語の肝は、この2つの物語を繋ぐ形で描かれる第三の物語である。

この2つの物語を繋ぐのは、リサルであり、総督であり、半人半馬のティクバランである。フィリピンの反乱軍を鎮圧しようとするスペイン人総督は、それを捉えれば世界を支配できると言われる伝承上の巨人ベルナルド・カルピオを捉えようとし、ベルナルド・カルピオを操ることができるのはティクバランだという伝承に従って、ベルナルド・カルピオを捉えるようティクバランに求め、それによってスペイン軍の勝利を手にする。つまり、フィリピン人による革命が成就しないのはフィリピン人がベルナルド・カルピオを捉えることに失敗したためということになる。これは、劇中で描かれるフィリピン革命だけでなく、それ以降フィリピンで今日まで続く未完の革命のことも含意している。

その上で、死を目前にしてティクバランの不死のまじないを求めるカルヨに対して、ティクバランは「ベルナルド・カルピオなんていない。ベルナルド・カルピオは想像の産物だ、現実じゃない」と言い、ベルナルド・カルピオを否定する。不死のまじないの存在を否定され、カルヨは息絶える。これさえ手に入れば全ての問題が最終的に解決するというベルナルド・カルピオは存在しないということだ。そうだとすれば、フィリピン革命が未完のままであることはどのように考えればよいのか。

イサガニは、劇中でバシリョやシモウンや神父と問答を重ねる。とりわけ物語の結末近くでの神父との問答では、「なぜ」で始まる多くの疑問を神父にぶつける。それらは劇中ではフィリピン革命期に関する疑問だが、しだいに100年後の今日のフィリピンにも通用する疑問となり、解決しない謎が重ねられていく。

タイトルの『痛ましき謎への子守唄』は、言葉を補っ

て意識すると、「答えの見つからない悲しみに満ちた疑問に向けられた子守唄」だろうか。冒頭で恋人に捧げられた求婚歌は、個人の経験に基づく物語をしいに織り込みながら国民的な革命歌になっていく。

物語の冒頭で、『ノリ』の冒頭に処刑されたゴンブルサの3神父のことを忘れるなど書かれていたことが言及される。そのことを『ノリ』に書いたりサルは、ゴンブルサと同じ場所で処刑される運命を辿った。この作品の冒頭でリサールのことを忘れるなど描いた

ことは、リサールが『ノリ』や『フィリ』で行おうとしたことを映画で受け継ぐという表明である。劇中に、マニラではじめて映画が紹介され、観客がスクリーンの様子を見て驚いて逃げ出し、それを見てティクバランたちが笑う場面がある。その後もティクバランは何度かカメラをのぞく様子を見せる。この作品の観客はマニラの最初の映画の観客と同じで、神出鬼没のティクバランを媒介として、スクリーンの中の出来事とながっているのである。

『痛ましき謎への子守唄』作品情報

作成：山本 博之

背景知識

フィリピンで生まれ育った人なら誰でも知っているので劇中ではまったく説明されないが、理解できないと物語が十分に理解できない人名などに以下のものがある。

- ホセ・リサールによる2冊の小説『ノリ・メ・タンヘレ』（『ノリ』）¹⁾と『エル・フィリプステリスモ』（『フィリ』）²⁾の主な登場人物……シモウン（クリソストモ・イバラ）³⁾、イサガニ⁴⁾、バシリヨ⁵⁾
- ホセ・リサールの処刑……ゴンブルサ⁶⁾、ホセ・リ

- 1) 日本語訳はホセ・リサール著（岩崎玄訳）『ノリ・メ・タンヘレ わが祖国に捧げる』（フィリピン叢書1、井村文化事業社、1976年）。
- 2) 日本語訳はホセ・リサール著（岩崎玄訳）『反逆・暴力・革命 エル・フィリプステリスモ』（フィリピン叢書3、井村文化事業社、1976年）。以下の人物紹介は『ノリ』と『フィリ』の日本語訳による。
- 3) シモウンは『フィリ』の登場人物。巨万の富を持つ宝石商。総督を操って致富に専念していると思われているが、実は恐るべきテロリスト。植民地政府要人を一気に爆死させて革命を成功させようとするが、不思議な運命で完全に失敗する。その正体は『ノリ』のクリソストモ・イバラ。
- 4) イサガニは『フィリ』の登場人物。まじめ人間。パウリタ・ゴメスの恋人だが、パウリタはホワニト・ペラエスに乗り換える。イサガニは彼女のことが忘れられず、彼女を助けようとして偶然シモウンの革命を無にしてしまう。
- 5) バシリヨは『ノリ』と『フィリ』の登場人物。『ノリ』では侍祭。後にマニラに出て大学で医学を学び、卒業予定の年になる。最後には革命に加担する。
- 6) ゴンブルサはフィリピンに実在した3人の在俗神父マリアノ・ゴメス(1799-1872)、ホセ・ブルゴス(1837-1872)、ジャシント・サモラ(1835-1872)の姓の第一音節を繋げたもの。3人はフィリピン人司祭を認めないカトリック教会を批判して教会改革運動を指導したが、1872年1月に軍港カビテで起こった労働者の暴動事件を煽動したとして同年2月17日に処刑された。

サル⁷⁾

- フィリピン革命とカティプナン……アンドレス・ボニファシオ⁸⁾、グレゴリア・デ・ヘスス（オリヤン）⁹⁾、プロコピオ・ボニファシオ¹⁰⁾、エミリオ・アギナルド¹¹⁾

- 7) ホセ・リサールは実在の人物(1861-1896)。フィリピンの革命家、医師、著作家、画家、学者。1882年にスペインに留学し、フランスとドイツを経由して1887年に帰国。ドイツ滞在中の1887年に出版した小説『ノリ・メ・タンヘレ』が反植民地的だと批判されたために再びヨーロッパへ。ベルギー滞在中の1891年に小説『エル・フィリプステリスモ』を出版。1892年に帰国すると植民地当局によってミンダナオ島に流刑される。流刑を終えた1896年、任地のキューバに向かった船上で逮捕され、同年12月30日にマニラで銃殺された。処刑の前の晩に妹に託した辞世の詩は『ミ・ウルティモ・アディオス』として知られる。
- 8) アンドレス・ボニファシオは実在の人物(1863-1897)。フィリピンの独立運動家・革命家。マニラのトンド地区の貧民層出身。29歳のときにグレゴリア・デ・ヘスス(当時18歳)と結婚。1892年にスペインからの独立を目指す秘密結社カティプナンを創設、1895年に最高指導者になり、エミリオ・ジャシントらと勢力拡大につとめた。1896年8月に武装蜂起。地方役人層のアギナルドと路線対立を起こし、袂を分かって独自の革命を進めようとしたが、アギナルドに逮捕され、1897年5月10日に処刑された。自分で動けないほど衰弱した状況で、弟のプロコピオとともにナグパトン山で銃殺されたと考えられている。享年34歳。
- 9) グレゴリア・デ・ヘススは実在の人物(1875-1943)。愛称オリヤン。秘密結社カティプナンの女性部門の副部長。
- 10) プロコピオ・ボニファシオは実在の人物(1873-1897)。アンドレス・ボニファシオの弟。アギナルド派と別れてマニラに向かう途中、リンボン滞在中にアギナルド派のボンゾンらに襲われた。アンドレスとともに捕らえられ、はじめナイク、後にマラゴンドンに連行され、アギナルドらによって有罪判決を受けて銃殺された。享年24歳。
- 11) エミリオ・アギナルドは実在の人物(1869-1964)。フィリピンの革命家。フィリピン第一共和国の初代大統領(1899-1901)。1895年にカティプナンに参加。1896年のカティプナンの武装蜂起では独自の軍を編成してカビテ州を武力解放した。1897年にスペイン軍がカビテ州に総攻撃をかけてカティプナンが敗走したとき、ボニファシオを銃殺刑に処してカティプナンの主導権を握った。その後、スペイン軍と交戦を続ける一方でマニラの弁護士ベドロ・パテルノの仲介でスペイン当局と和平協定を調印、同年12月に香港に到着した。

- フィリピンの伝承……ティクバラ¹²⁾、ベルナルド・カルピオ¹³⁾
- 革命歌「バリワグのジョセリン」¹⁴⁾(<http://goo.gl/95OFIC>)

あらすじ

およそ1時間ごとに区切った。場面ごとに番号を付したが、いくつかの場面をまとめて番号を付していることもある。

1. リサールの処刑／スペイン軍による総攻撃 (開始～1時間)

- 01 ホセ・リサールについてイサガニと話を交わした音楽青年¹⁵⁾は、リサールの処刑¹⁶⁾を見届けた後、恋人のペピータ¹⁷⁾に求婚歌を贈り、革命に身を投じる
 - イサガニが口にする女性の名前はパウリタ¹⁸⁾
- 02 リサールが処刑直前に書いた辞世の詩¹⁹⁾はイサガニによって盲目の詩人ラモナに伝えられ、ラモナからシモウンに伝えられる
 - シモウンが山中で見つけるのはマリアクララ²⁰⁾の墓
 - シモウンが口にするのは「さらばサンディエゴ²¹⁾」

12) ティクバラはフィリピンの伝説上の存在。頭と足が馬、胴体が人間の半人半馬。いたずら好きで、山や森で人を迷わせる。

13) ベルナルド・カルピオはフィリピンの神話上の強くて勇敢な巨人。リサール州モンタルバンの洞窟に閉じ込められているとされている。2つの山がぶつかるのを防いでいるとも、2つの山で閉じ込められていて逃げようと肩を動かすと地震が起こるとも言われている。ある伝説によれば、スペイン人が祈禱師の力を借りてベルナルド・カルピオを捕らえ、2つの岩で押さえた。ホセ・リサールとアンドレス・ボニファシオはベルナルド・カルピオの伝承に強い関心を示し、リサールはモンタルバンの山を訪れ、ボニファシオはモンタルバンの洞窟をカティプナンの密会の場所にした。名前の由来はオランダウ殺しで知られるアストゥリアス王国の英雄ベルナルド・デル・カルピオ。

14) この歌は「バリワグのジョセリン」(Jocelynang Baliwag)。1896年のフィリピン革命時に革命派たちが最も好んで歌った歌で、「革命のクンディマン(求婚歌)」とも呼ばれる。この歌はブラカン地方バリワグの美しい娘ペピータに向けた求婚歌の形式を取り、祖国フィリピンへの愛を歌った。

15) この人物はホセ・リサールではないが、ホセ・リサールが処刑前に暗い部屋で書き物をして過ごしていた姿を思い出させる。役名はムシケーロ(音楽家)としか書かれていないため、以下「音楽青年」と呼ぶ。

16) 1896年12月30日。

17) 求婚歌「バリワグのジョセリン」のタガログ語の歌詞に織り込まれた女性の名前。

18) パウリタ・ゴメスは『フィリ』の登場人物。イサガニが愛した女性だが、パウリタは富裕な欧亜混血者のホワニト・ベラエスに乗り換える。

19) 「わが最後の別れ」。処刑前夜にリサールの妹に託された。

20) マリアクララは『ノリ』と『フィリ』の登場人物。『フィリ』では聖クララ尼僧院で迫害を受けているという噂だけで姿は現さない。

21) サンディエゴはクリソストモ・イバラ(シモウン)が生まれた土地。

- 03 山中の革命兵たちの間で音楽青年がペピータに贈った歌を弾く。スペイン人総督の愛人になったセサリアが与えた情報によってスペイン兵がシラン村に総攻撃をかけ、革命兵たちが掃討され、音楽青年も命を落とす

- 04 バシリヨから依頼を受けたイサガニは中国人商人から薬を手に入れてバシリヨに渡す

- イサガニとバシリヨの問答は「医者と詩人は非常に役に立つか」

2. アンドレスの殺害(1時間～2時間)

- 05 セサリアの情報によりシラン村襲撃の成功を収めた総督はセサリアとの関係を断つ

- セサリアと総督の会話「グレゴリア・デ・ヘススに会ったからカビテに戻りたい」、「カビテはじきに陥落する。アギナルドはモンタルバン²²⁾山にベルナルド・カルピオを探しに行った」

- 06 音楽青年が死んだと知らされて悲しむペピータが革命兵たちの間で求婚歌を歌う

- 07 指揮官ラザロ・マカバガル²³⁾と兵士たちが、衰弱したアンドレス・ボニファシオとプロコピオを連行する。野営地ではグレゴリア(オリヤン)を2人に合わせようとしぬい

- 女(フレ²⁴⁾)がアンドレスを医者に診せるよう兵士(アガピート・ボンゾン²⁵⁾)に求めるが兵士は無視

- 寝ているグレゴリアを襲おうとする兵士を咎める兵士アルテミオ²⁶⁾「アガピート・ボンゾンがリンボン²⁷⁾でしたのと同じことをするつもりか」

22) モンタルバンの洞窟にベルナルド・カルピオが閉じ込められていると考えられている。

23) ラザロ・マカバガルは実在の人物。フィリピン革命時にアギナルド派に属し、ボニファシオとその弟プロコピオの処刑を担当した。1918年、ラザロらがカビテ山中を訪れてボニファシオを埋めた場所を示し、ボニファシオの遺骨は立法議会ビル(現国立博物館)に納められた(1945年2月の日本軍と連合軍によるマニラの戦いで焼失した)。

24) フレの由来は不明。フィリピンの漫画『ケンコイ』の作画者で「タガログ語コミックの父」として知られるトニー・ベラスケス(1910-1997)によるコミックのタイトルおよびその主人公の名前に「Aling Hule」がある。

25) アガピート・ボンゾンは実在の人物。カティプナンのアギナルド派。アギナルド派と別れたボニファシオたちをリンボンで襲い、アンドレスの腕を撃ち、プロコピオを兆着し、もう1人の弟シリアコを射殺して、アンドレスとプロコピオをアギナルドのもとに連行した。

26) アルテミオは「フィリピン国軍の父」アルテミオ・リカルテ(1866-1945)のことか? スペイン駐屯軍の攻撃を指揮してスペイン軍部隊を壊滅させ、1897年3月にアギナルドの軍の総司令官に選ばれた。

27) リンボンはカビテ州のインダン付近の町。ボニファシオと弟のプロコピオがアギナルド派のアガピート・ボンゾンに襲われた場所。襲撃の際にボンゾンはボニファシオの妻グレゴリア・デ・ヘススを強姦したという。

08 シモウンはキログ²⁸⁾の女たちから毒薬を受け取った後、総督と密会する

- 酒に酔ったキログの女たちが言うのは「私たち中国人は友達」
- 総督と密会しているシモウンが吸引しているのは阿片
- 総督がシモウンにキューバ行きを提案するのはキューバにウエイレル²⁹⁾がいるため。シモウンは拒否

09 指揮官の指示で兵士たちがアンドレスとプロコピオを殺害、その様子を農夫が目撃する。指揮官はグレゴリアにアンドレスたちは山に置いて来たと言って立ち去る。アンドレスを探そうとするグレゴリアにセサリアとカルヨ³⁰⁾が着いて行く。フレの家で休憩

- 指揮官の説明「アンドレスたちは山のコロルム³¹⁾に置いて来た」、「ブンティス³²⁾山にいる」

3. テイクバランの不思議な力(2時間～3時間)

10 パーティー会場、酒を飲んで談笑している神父とジャーナリストのベン・ザイブ³³⁾

11 3人のテイクバランが馬の嘶きとともに登場する

- 総督と男テイクバランの会話「アンドレスはアギナルドに捕まった。数日中に殺される」、「ペドロ・パテルノ³⁴⁾」、「アギナルドが戦いをやめたいと言ってきた」
- 総督と中性テイクバランの会話「ベルナルド・カルピオを捕まえてほしい。そうすればフィリピンは

永久にスペインのものだ³⁵⁾」、「私なら捕まえられる」

- 総督と女テイクバランの会話「シモウンも捕まえる?」、「誰もが奴の首を狙っているので時間の問題だ」

12 フランスから来たシネマトグラフを神父やベン・ザイブの前で上映。化け物がスクリーンを覗き、驚いて逃げ出す観客たち。それを見て笑うテイクバランたち

13 グレゴリアら、テイクバランの家に立ち寄って不死のまじないを見せてもらう

- グレゴリアの告白
- 男テイクバランが見せる小瓶「戦場のおまじないで銃弾や刀をよける」、「洞窟にベルナルド・カルピオがいる。2つの岩で押さえつけられている。この国を救えるのは彼だけ、革命では無理」

4. グレゴリアたちの物語(3時間～4時間)

14 グレゴリア、セサリア、カルヨ、フレがアンドレスを探す

- カルヤの告白「マグディワン派³⁶⁾のマリアノ・アルバレス³⁷⁾」
- 男テイクバランがカメラを見る。大写しになる男テイクバラン
- セサリアと女テイクバランの会話。セサリア、目を覚まして「悪い夢を見た」
- グレゴリアの回想。田んぼで鍬を入れている男の子(フランシスコ)とご飯を持ってきた男の子(ホセ)。悲しそうに泥の中を這うグレゴリア
- セサリアの話。シラン村襲撃。10月31日のナスグブ襲撃
- 白い服の男たち(コロルム)が来る
- 女(ロサリオ)の小屋。「夫のホセが連れて行かれた」

5. シモウンに発砲／洞窟のコロルム(4時間～5時間)

15 バシリョとイサガニ、中国人の店で銃を手に入れ、シモウンの隠れ家に行き、バシリョがシモウンの腹を撃つ。イサガニはシモウンを連れてバンカで

28) キログは『フィリ』の登場人物。中国人。

29) ウエイレルは実在の人物(1838-1930)。スペインの軍人。フィリピン(1888-1891)とキューバ(1896-1897)で総督を勤めた。フィリピンではタガログによる反乱の鎮圧とミンダナオのモロ討伐で功績を上げた。

30) カルヨの由来は不明。

31) コロルムは、フィリピンで1831年(1843年?)にデ・ラ・クルスが結成したサン・ホセ信徒団の別称。信徒団員が祈りの最後に唱和したラテン語の文句〈終りなき世界を*per omnia saecula saeculorum*〉から部外者がこの信徒団をコロルムと呼んだ。1920～30年代にフィリピン各地で発生した千年王国的な社会運動も外部者がコロルムと呼んだが、両者の間に直接のつながりはない。今日のフィリピンでコロルムと言えば一般に「白タク」を意味する。

32) ブンティス山はカビテ州マラゴンドンにある山。ボニファシオたちが処刑されたのは公式にはナグバトン山だとされているが、地元住民にはブンティス山だとする人もいる。

33) ベン・ザイブは『フィリ』の登場人物。新聞記者。狂言回しの役をつとめる。

34) ペドロ・パテルノは実在の人物(1858-1911)。1897年のスペインと革命軍の交渉の仲介を行った。当時の歴史を記した書物を多く出版したが、アンベス・オカンボらの研究者はその多くをフィクションと見ている。

35) スペイン人がバルナルド・カルピオを捕まえたことがあるという伝承がある。

36) マグディワン派はマリアノ・アルバレスが立てたカティブナン一派。カビテ州のカティブナンの主要二派の1つ。

37) マリアノ・アルバレスは実在の人物(1818-1924)。カビテ州出身でマグディワン派の革命軍将校。グレゴリア・デ・ヘススの叔父。

川を海まで逃げるが、波が強いため陸を歩いて行くことに

- アンドレスが死んだことはエミリオ・ジャシント³⁸⁾から聞いた
- イサガニとバシリョの会話「シモウンを殺す理由は何だ」、「二度とフリ³⁹⁾の名前を出すな」
- バシリョは一緒にラグナ⁴⁰⁾に行くかとイサガニに尋ねる
- シモウンはバシリョに「エリアスが金を埋めた、バレテの木⁴¹⁾の下を掘れ」と言う

- 16** 洞窟に白衣の男たちがいる。指導者セバスチャン・カネオ⁴²⁾が説教し、白い服を来た聖マリアが歌う
- 「スペインとの戦いに勝つのは祈りだけ これはバナハウ⁴³⁾からの最後の訪問 戦わずにスペインが降伏するという「聖なる声」⁴⁴⁾」
 - 「タヤバス⁴⁵⁾に行く 自分たちの腰をロープで縛って行き、敵にそのロープを投げるとロープが敵を縛る」
 - 「アグリピノ・ロントック⁴⁶⁾ 祈りが必要 聖なる

38) エミリオ・ジャシントは実在の人物(1875-1899)。フィリピン革命の運動家。

39) フリは『フィリ』の登場人物。本名はフリアナ。バシリョの幼馴染で恋人。純粋無垢な娘で『フィリ』の主役の1人。父親が大きな負債を抱え、バシリョにもらったマリアクララの宝石入りのロケットを売るのを拒んでメイドになるが、フリと父親はロケットをシモウンに売って拳銃を手に入れる。投獄されたバシリョの減刑を求めてカモルラ神父に相談するが、カモルラ神父に強姦されそうになり、教会の窓から飛び降りて自殺する。恋人の死を知ったバシリョはシモウンへの復讐を誓う。

40) ラグナ州はフィリピン北部ルソン島中部にある州。神秘的なマキリン山やバナハウ山で有名。同州カランバ市は国民的英雄ホセ・リサールの出身地。

41) バレテの木。ガジュマルに似ているがフィリピンの固有種。古いバレテの木にはティクバランなどが宿っていると信じられている。

42) セバスチャン・カネオは実在の人物。パタンガス出身の神父。乾季に泉がわいた奇跡により信徒を得る。バナハウ山の洞窟で「聖なる声」と交信し、信徒たちが1ヤードのロープを腰に縛ってタヤバスのスペイン軍拠点に向かい、スペイン人兵士に出会ったらロープを投げると自動的に縛り上げてしまうという計画を得た。これをアグリピノ・ロントックに相談したところ、ロントックは祈りを通じて神が成功を保証すると言って計画に同意した。1897年6月24日、そろいの衣装を着てろうそくを持った男女子どもがタヤバスの町に入った。スペイン人兵士に銃撃されて死傷者が多く出た。「聖なる声」はカネオに「祈りが足りなかったため。撃たれたときに神の名前を口にできなかったため」と説明した。

43) バナハウはラグナにある休火山。最後の噴火は1721年。泉や洞窟が多い。デ・ラ・クルスが率いるサン・ホセ信徒団(コロールム)はバナハウの洞窟で集会を行った。

44) 「聖なる声」についてはアグリピノ・ロントックの注を参照。

45) タヤバスはケソン州の市。1843年にデ・ラ・クルスがタヤバスでサン・ホセ信徒団(コロールム)を創立した。

46) アグリピノ・ロントックは実在の人物。バナハウ山に入った最初の隠者。1886年にスペインの支配から逃れて神秘的な力を手に入れるためにバナハウ山に移り住み、山を降りようとするたびに目が見えなくなったために生涯山を降りなかった。「聖なる声」を通じてバナハウ山と交信した。

声への祈り」

- 「時がきたらキリストが復活する リサールも復活する ベルナルド・カルピオが現れる バナハウ山に」

- 17** グレゴリアら、ロザリオの小屋へ。「アンドレスは死んだ、昨日ホセの幽霊を見た」

6. シモウンを運ぶ／アンドレスを探す (5時間～6時間)

- 18** グレゴリアのアンドレス探し

- セサリア、グレゴリアに告白(敵への協力者を許すか)

- 19** シモウンを運ぶ

- イサガニ、瀕死の革命兵たちを見つけて助ける
- シモウンと船頭の会話
- シモウンとイサガニの会話(恨みの対象を許すか)

- 20** バシリョ、ラグナのエミリオのところに行かずに木の下で穴を掘る

- 21** シモウンを運ぶ

- シモウンとイサガニの間答「アートはフィリピンを救うか」
- 船頭の話「銃弾を受けても傷つかないというまじない、友だちはみんな死んだ」

7. シモウンを運ぶ／ティクバランの不思議な力 (6時間～7時間)

- 22** シモウンを運ぶ

- 農夫の告白「アンドレスたちが兵士に殺されたのを見た」

- 23** 森の奥から白衣の聖マリアが逃げてくる。コロールムの男たちが来て洞窟に連れて帰る。洞窟で聖マリアが「バリワグのジョセリン」を歌い、ティクバランやシモウンやイサガニたちが聞いている。野外の祝祭でティクバランたちがダンスし、人々がベルナルド・カルピオへの供物を共食する

- 24** シモウンを運ぶ。道半ばで農夫と船頭が賃金支払いを要求、銀貨が入ったシモウンのカバンを盗って逃げるが、仲間割れして農夫が船頭を殺す。イサガニの銃により農夫はカバンを返し、農夫とイサガニがシモウンの籠を担ぐ

- 25** バシリョはひたすら穴を掘る

- 26** カルヤ、吐血してティクバランにベルナルド・カルピオの血をもらおうとするが、ティクバランは「ベルナルド・カルピオはいない、ベルナルド・カルピ

オは神話だ、想像の産物だ、嘘だ」と言うだけ。カルヤは息絶える

- 27** シモウンを運ぶ。シモウンがイサガニに盲目の詩人ラモナの話をする。シモウン、農夫に残りの賃金を支払う
- シモウンがスペイン語でリサールの詩を暗誦、途中からイサガニがタガログ語で続ける「これより優れた詩はない」、「わが愛しのフィリピン」
 - シモウンとイサガニの間答「フィリピンの真の自由とは何か」、「スペインからの独立はその一歩に過ぎない」

8. シモウンの告白／グレゴリア、山を下りる (7時間～8時間)

- 28** イサガニとシモウン、フロレンティノ神父⁴⁷⁾の家に着く。使用人のマルティナ⁴⁸⁾がシモウンの手当てをする
- イサガニとフロレンティノの対話「シモウンを許せない」、「憎しみを乗り越えなさい」
- 29** バシリョ、穴を掘り続け、簡素な十字架を見つけて泣き出す「母さん……」
- 30** フロレンティノ神父にシモウンの引渡しを求める連絡が届く。総督は免職になり、キロガは逮捕された。シモウン、残りの銀貨をマルティナに渡して毒を飲む
- イサガニとフロレンティノの間答「なぜですか」、「答えは1つ。鏡を見なさい」
 - シモウンの告白
- 31** フレとセサリア、グレゴリアを伴って山を下りる。アンドレスは見つからないまま

47) フロレンティノ神父は『フィリ』の登場人物。裕福な家庭出身の現地人神父で、人々の尊敬を集めている。太平洋岸の山荘で余生を送っている。敗残のシモウンが転がり込み、密かに服毒して、死の床で自分の過去を語る。神父はそれを聞いて大きな驚きを示す。

48) マルティナの由来は不明。『ノリ』と『フィリ』には同名の人物はいない。